

DNA、アンチエイジング、美白 最新スキンケアを読み解くキーワード

お話を伺ったのは...

天人花エキスは
ようやく発見した
世界初の成分です!



カネボウ化粧品
井上真由美さん

価値創成研究所 皮膚科学研
究グループ研究員。DNAリパ
ア技術の研究をするエイジ
ングケア研究のスペシャリスト。
100種類以上の天然素材から
「天人花エキス」を発見。

AA成分として
フェルラ酸にも
注目しています!



あおいクリニック銀座 院長
中野あおい先生

美容皮膚科医。GFを使った
再生メソセラピーの第一人者。
⑧東京都中央区銀座5-5-13
坂口ビル5F ☎03-3569-0686
⑨10:00~19:00 ⑩木曜・
日曜・祝日

黄ぐすみは蓄積
するので、早めに
対策をして!



資生堂 商品PR
高橋朋子さん

商品知識が豊富な頼れるPR
さん。「資生堂の独自成分プ
ライティンパクトは、生まれ
たての透明度が高い肌を保つ
ので、大人の肌色対応に最適
です」。

最旬のスキンケアトピックスについて、研究者や
医師、PRさんに直撃! 話題のDNAや最新
美白&AAアプローチ、美のプロも注目する
キーワードを聞きました!

DNAコスメの進化は とどまる気配なし!

今、注目のトピックスと云えば、やはりDNAコスメ。2003年にヒトゲノム(染色体内のDNA塩基配列)がほぼ解析されて以降、DNAや遺伝子の研究が飛躍的にスピードアップ。その結果を応用したDNAコスメが続々と登場することに。「DNAダメージを修復し老化を阻止する」なんて聞くと、ビーズアップ世代にはまだ早いような気もするけれど...

「紫外線や活性酸素により、ひとつの細胞内で1日に数万個ものDNAがダメージを受けています。人の細胞にはもともとDNAダメージを修復する機能が備わっていますが、その機能は加齢と共に低下してしまいます。20代から老化対策としてDNAコスメを使っても早すぎるといふことはありませんよ(井上さん)。」

した天人花エキスなど、DNAダメージに着目した新成分も次々と発表され、今後もこの分野からは目が離せそうにありません。

アンチエイジングはGF、美白は黄ぐすみに注目

アンチエイジングの分野では、もともと体内に存在する「GF(成長因子)」がキーワードに。GFとは体内の細胞活動をコントロールしているタンパク質の一種。

「抗老化効果の高いEGF(上皮細胞成長因子)やFGF(線維芽細胞成長因子)はその代表格で、細胞を修復・再生する作用があります。化粧品に含まれているGFは科学的に合成されたものですが、最近、話題になっているPRP療法では自己血液中の血小板周囲に付着したGFを利用します(中野先生)。」

加齢と共に減少するGFの生成を促したり、GFの働きを高めることでシワやたるみを防ぐコスメも注目を集めており、GF関連アイテムの

勢いはまだまだ続きそうです。

美白の分野では「黄ぐすみ」が引き続き話題に。これまでの美白コスメはメラニンに照準を合わせたものがほとんどでしたが、現在では黄ぐすみに特化した美白アイテムも続々登場。この黄ぐすみの原因として、頻繁にその名が挙がるようになったキーワードが、糖化とカルボニル化。どちらもタンパク質の変性・変色だけれど、「糖化は糖が、カルボニル化は脂質の分解物が真皮のコラーゲンやエラスチンなどのタンパク質と結合して起こります。以前から資生堂では糖化、カルボニル化の研究を進めていましたが、解析した結果、さらにカルボニル化の方が黄色化の程度がより深刻であるという事実を突き止めた(高橋さん)。」

真皮の黄色化は加齢と共に蓄積されてしまうため、黄ぐすみが肌に定着する前に手を打つことが重要に。抜けるような美白肌を目指すなら、メラニンだけでなく、黄ぐすみを視野に入れた美白ケアが必須!

注目すべき美肌ワード

カルボニル化 DNAダメージ DNA

EGF DNAコスメ 糖化

...詳しくは次ページから!

最初に知っておこう! 医薬品、医薬部外品、 化粧品の違い

医薬品とは:

「医療用」と「一般」の2種類がある

病気の予防や治療をするために使われその効能・安全性が認められているもの。医師の処方のもと使用される医療用医薬品と処方箋がなくても購入できる一般医薬品がある。

医薬部外品とは:

医薬品と化粧品の中間に位置する存在

ある特定の使用目的があり、その作用が医薬品より緩和されたものの総称。厚労省の承認を得ていることが条件。

化粧品とは:

ボディケア製品や「化粧用品」フレグランスも「化粧品」

体を清潔にしたり、美しくするために使用し、人体への作用が緩和なもの。パッケージには全成分表示が義務づけられている。